

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105123
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 「福平」
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町7505番地 (電話) 099 - 210 - 8550
自己評価作成日	平成30年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの敷地内の庭にある5本の桜の木の下で、春のお花見や夏祭りを行ったり、敬老の日にはご家族と一緒にお祝いをしたりしています。職員も勤続年数が長く、利用者を熟知してその方に合わせたケアができるように、認知症の内部勉強会、また外部の研修会に積極的に参加し、他の施設との連携を取り、ご利用者様やご家族様にどのようにしたら喜んでいただけるかを、日々考えながら取り組んでいます。年に3回の消防署立会いの下での消防訓練、毎月の自主防災訓練に力を入れて災害に備えています。毎月ホームで、お便りを作り、ご家族に様子を知らせています。またご利用者様の重度化がみられるようになり、ホームでの看取りについて、ご家族やご本人の希望があれば主治医と相談しながらお世話が出来ればと考え、職員の研修にも力を入れています。また、中学生の体験学習、踊りボランティアや町内会、愛護会など、多方面からの協力をいただきながら、ご利用者様にこの施設にきて良かったと思われるように楽しく喜んでいただき、笑顔いっぱいのホームづくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は 二階建て2ユニットのグループホームである。同敷地内に有料老人ホームと小規模多機能ホームが隣接して協力関係にある。
- ・地域密着型サービスを踏まえた理念があり、各ユニットでサブテーマを月毎に作成して日々のケアを振り返り、質の高い介護サービスを目指に取り組んでいる。職員の勤務年数が長く家族からの信頼が厚い。
- ・自治会に加入し清掃活動や廃品回収・地域行事に参加している。中学生の体験学習や小・高校・短大生のサマーボランティア、敬老会にも手品や踊り、三味線のボランティアを受け入れ交流を行っている。法人の行事の夏祭りには子供たちの参加があり交流している。
- ・職員は利用者の尊厳を守り、本人や家族の思いを大切にして、その人らしい暮らしを支援している。内部・外部研修会に参加しやすい環境が整っており、職員は自己研鑽に励み、資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和して念頭に入れ、一人ひとりのその人らしい生活を把握し、実践に向けて取り組んでいる。	事業所の理念を基に各ユニットで介護の目標を作成している。理念は目につきやすい場所に掲示し、毎朝唱和して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	桜の花見や夏祭り等行事の際は、近隣の皆様が参加したり、町内会の各行事にも参加して交流を深めている。子供達にも参加しているが、ここ数年は、暑さにて室内で行っている。	自治会に加入し廃品回収や清掃活動・校区の行事に参加し駅伝見物等にも出かけている。地域のボランティアや中学生の体験学習を受け入れている。地域から果物や野菜の差し入れがあり、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアを受け入れ地域の子供達に認知症について理解して貰えたらと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族や民生委員、地域包括支援センター等に参加を願ひし、その時々課題点や問題点を提起して意見交換を行う会も2ヶ月に1回行っている	2ヶ月毎に開催している。利用者の状況や行事報告・活動状況・避難訓練の報告を行い、参加者から地域の情報等が出され、町内会の困り事等、課題の提起もあり意見交換している。出された意見はサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会等で地域包括センターとの意見交換を行ったり、連携を取っている。また介護相談員の受け入れも行い、関係性をきざしている。</p>	<p>市担当者とは窓口に出かけたり、電話やメールで報告や相談をしてアドバイスを貰っている。支所の福祉課や介護保険関係は本庁に相談に行っている。介護相談員は年に1回訪問があり、グループホーム連絡協議会や、市の研修会には積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に身体拘束委員会を行い「禁止の対象となる具体的な行為」を繰り返し確認しあい、身体拘束のないケアに努めている。家族へも連絡している。</p>	<p>身体拘束委員会があり、2ヶ月毎に研修会を実施している。マニュアルもある。身体拘束の対象となる具体的な事例を示し、言葉の拘束や態度・4点柵・薬・ちゃん付け等の呼び方等職員が共有して拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせずに外出希望の時は見守りや同行している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を行い、気付きやすい身体的虐待だけでなく、ネグレスト・心理的虐待・経済的虐待についても話し合い、ケアの仕方に問題がないか確認している。又ストレス講習等も交代で受ける。傾聴に心がける。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	前回までは制度の利用があったが亡くなられたので必要が無いがこれからも権利擁護については大切なことなので勉強していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度質問を受け、確認しながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談の窓口を設けたり、生活日誌に利用者の意見、不満、苦情等を書き留める欄を作ったり、面会簿にご家族が記入しやすい欄を作り、苦情相談委員会で話し合い玄関にもポストを設置している。	利用者からは日常の表情や所作から把握し、家族からは家族会や面会時に、声かけして意見や要望を聞いている。介護相談員の訪問もあり参考にしている。遠方の家族はラインを使ったりして対応している。出された意見は職員で話し合い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。 日常的に職員からの意見を吸い上げ意見交換を行っており運営やケアに反映させている。	毎月の職員会議や全体会議・申し送りの時に、意見や提案を聞いている。個別相談にも対応している。入浴介助やケアの事など意見が出されている。出された意見や要望は、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、多方面から職員個々の状況に気を配り職場環境・条件の整備に努めている。また今年から人事評価シートを作成して、職員の努力や勤務状況を把握して、やりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人採用時は、新人研修を行い、「谷山地区グループホーム勉強会」に出席したり、職員が考えた内部研修を行って（月1回）、勉強している。また、法人内外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問を行いサービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも会って面識を作ると共に、本人自身が困っている事や不安な事をよく聴き、受けとめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得して安心して、ホームに入所させることができるように、困っている事や不安な事を傾聴し受けとめ、解決する様になるように努めている。些細なことでも耳を傾ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談する中で、何が必要かを見極めて、様々な可能性を視野に入れ対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活暦や趣味を知り、日々の生活の中で一人ひとりの得意な事や好きな事を、活かせる様にし、自信を持って生活出来るような支援をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に声を掛けたり、電話連絡等により、家族とコミュニケーションを図り、本人が安心して生活出来るように、思いを共有しながら、共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しい時もあるが、馴染みの人と気軽に面会・外出が出来る雰囲気作りに努めている。宗教等も家族の意向も取り入れる。	家族や知人の面会時には、ゆっくりしてもらえようお茶を出す等、雰囲気作りをしている。家族との自宅訪問や外食等の外出時にリフト車で送迎したり、福平便りの送付、年賀状作成や電話取り次ぎ等で、家族との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や認知症の程度等を考慮しながら座席も配慮し、利用者同士が優しく楽しく関わり合える生活の場である様に努め席代え等も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の為、退所した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行ったりして関係性を保つようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生き方や趣味、やりたい事などを、本人・家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。	日常の関わりの中で会話を通して表情や行動で把握して記録に残している。意思の表出が難しい場合は、表情や行動等から思いを汲み取るようにして、職員間の連携や家族からも聴き取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を聞いたり、日々の生活を営む中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティングやカンファレンス等により、一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握し孤立しないようにつとめる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、月一回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望が反映されたプランになるように努めている。	本人や家族の希望や意向を聴き、主治医の意見を取り入れ、意見やアイデアを反映させ、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、6ヶ月で見直しをしている。状況に変化があれば、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に記録するようにし、職員全員が情報共有し統一した支援が出来るように努め個人連絡網も活用する。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>美容院、通院等の外出支援等のほか、本人・家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。自宅への一時帰宅も実践する。外泊も含めて。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方々による、家庭菜園や日舞観賞、地元中学生の体験学習を受け入れる事や地域の方とふれあう事により、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診時の状況を適切に把握する為「病院受診連絡表」を活用し往診希望も取り入れる。</p>	<p>かかりつけ医は、本人や家族の希望を大切にしている。訪問診療が月に2回あり、すぐに電話連絡ができ安心感がある。訪問看護で24時間医療連携体制が整い適切な医療を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内の看護師と、日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。また、体調を崩された方の所へ来られる訪問看護師に情報を伝え、適正なケアができるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり、直接担当医より情報を得たりしながら、早期退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化、終末期の対応について、本人・家族の意向を書面にて確認している。その方針は全員共有している。また、状況変化に応じて再確認するようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は入居時に、本人や家族に書面で説明し同意書を交わしている。状況変化の時は、主治医と家族とで話し合いを重ね、方針を確認している。夜間は訪問看護を通して、昼間は主治医に連絡するようにしている。看取りの経験もあり、看取りの後の家族や職員のケアも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法の講習会を実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。また、連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回、様々な状況を想定して消防署の指導・立会いで避難訓練を行い、毎月各ユニットごとに防災自主訓練を行っている。マニュアル作成し安全に避難誘導出来るように努めている。</p>	<p>年3回夜間想定で消防署立ち合いのもとマニュアルを基に避難訓練を実施している。同一敷地内の3事業所での合同訓練を行っており、消防分団より実施指導を受けている。毎月、各ユニットごとに防災自主訓練を行っている。災害用に水・おかゆ・カンパン・缶詰・レトルトカレー・飴・羊かん等を備蓄し、カセットコンロも用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合い、意識の向上を図っている。また、職員はよく理解して対応している。	一人ひとりの人格を尊重する接遇の内部研修を行っている。排泄時の誘導の声かけや入室時の声かけ、利用者に関する職員間での話の内容の配慮等、職員で共有して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に本人がどのように生活したいのかを探りつつ、本人の思いを大切にし、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしが出来るように努めながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えて、メニューに好みの意見を取り入れるようにしている。本人の力量に応じて一緒に食事の準備を行い、必ず一緒に食事を取る。一部重度や看取りの方は時間をずらしたりして、居室にてその方のペースで行っている。	献立は利用者と一緒に考えて、楽しみのある食事ができるように配慮している。形態もミキサー・刻み・とろみ食等、個々に応じて対応している。誕生会は本人の好きな物を提供している。花見弁当や庭での食事等楽しみのある食事である。利用者個々に応じてお盆やテーブル拭き、下膳等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が不足がちな方にも、ゼリーを使用したり、工夫して摂取確保に努めている。食事量も一人ひとりにあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。歯科医師による口腔チェックを行っている。口腔指導、月に2回。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄のリズムを整え、失敗やおムツの使用を減らせるように努めている。排泄チェック表等も活用する。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。布パンツ・リハビリパンツ・パット・オムツを利用者の状況に合わせて選択し、声掛けや見守り・誘導により昼間は、トイレでの排泄を基本に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	、できるだけ薬に頼らない工夫している。排便の周期をチェックし水分摂取、散歩や腹部マッサージ等も随時行っている。オリゴ糖も使用している。寒天などでゼリー等も作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一番風呂に入りたい、午後から入りたい等、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。入浴剤も入れている。	入浴は週2回を目安に、時間や順番・体調等、個々の希望に合わせて柔軟に対応している。2人介助で楽しんで入浴できるように支援している。失禁時等は、陰洗やホットタオルで清潔保持を図っている。好みで入浴剤を使用している。入浴を拒む利用者には、タイミングをみて声かけして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に居るのが不安な人、寝付けない人等様々だが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。添い寝もする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別にセットしてもらい、間違いなく投薬するようにその日の日勤職員全員でチェック表に記入して確認している。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解し、漏れが無いように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担して、ホームの一員としての役割や自信を持って生活出来る様支援する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外の陽ざしや風を感じる事が出来る様に、中庭の散歩を日課にしている。月1回の外出に出かけているが看取りや暑さにより外出できない時は、室内でお弁当などでも楽しまれている。また、本人からの外出希望にはできる限り応えられる様に支援している。	日常的に体調や気分を見て敷地内を散歩したり、縁側で外気浴をしている。行事計画で初詣や神社詣り・外出に出かけている。少人数でドライブや買い物等に出かけている。家族の協力で受診や買い物、外出等に出かける際はリフト車での送迎も行っており、外出の機会を多くできるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じてお金を所持し、希望があれば一緒に買い物に行ったり、頼まれて買って来たりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に、電話をしたい時は、電話が出来るように支援している。携帯電話を所持しいつでも連絡出来る様にしている。(本人操作の元)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや暖簾を有効に使い、個人の空間作りをしたり、共同の場所では綺麗で落ち着けるように配慮している。また、庭や畑から季節の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。馴染みのものを、置くようにしてる。	玄関やテーブルに季節の花を飾り、室温・湿度が快適に保たれ明るい。対面キッチンや和室を含めリビングは広々とした空間である。利用者は、室内から見える桜の木でも季節を感じながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でもテーブル座席の配慮や、和室を設置で気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫し季節感も取り入れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっており畳も使用している。	ベッドやエアコン・タンスが設置しており、家から持ち込まれたテレビ・時計・冷蔵庫・位牌・遺影・花等を飾っている。思い出の家族写真もあり、自宅で過ごすような設営をして、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な所に手すりを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。トイレのライトは、センサー式にしており、扉は引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない